

● ツキノワグマがくらす山 ●

クマは季節によって、さまざまなものをたくさん食べるため、広い範囲を動き回っています。クマがすんでいるということは、多くの生きものがすめる豊かな森林であることを意味します。

丹沢山地のクマ（ツキノワグマ）は、現在約30頭といわれ絶滅が心配されています。子孫を残していくことや不作の年でも食べ物を得ることも考えて、山梨県や静岡県などのクマとの交流ができるような豊かで広い森林のつながりが必要です。



あと  
ツメ痕

クマがブナの実を食べるために、ブナの幹に登った痕。

下にあるのは、人の手です。

フンを調べるとクマが季節によって、さまざまな森の恵みを食べていることがわかります。

- 春：木の芽やスズダケの芽（ササノコ）など
- 夏：ヤマザクラの実や昆虫など
- 秋：ドングリ類など

！ おくやま 奥山の自然に大きな異変 いへん ！

シカはもともとは山のふもとや平野に生きていた動物ですが、農地や住宅地の開発により平野部から追われ、奥山にまですみかを拡げてしまいました。

そのため、奥山の下草の様子には大きな変化ができました。シカが食べられる植物は姿を消し、シカが食べない植物ばかりが増えています。

もともと生きていた植物が減ると、その植物をエサやすみかにしていた動物がいなくなるなど次々に大きな問題が起こってきます。このように、シカが奥山にすむようになり、奥山の自然に大きな異変が生じています。



食べることのできないオオバイケイソウなどに囲まれてうずくまっている子ジカ。